

安土小学校の整備地決定に向けて ～安土っ子の未来のために



安土教育施設等整備準備室

Ver.3

【目 次】

1. 現在の状況

- ①現在の状況
- ②説明会のポイント
- ③寄せられた様々なご意見

2. 現地建替え案

- ④敷地拡張の可能性は？
- ⑤現地の特徴は？

3. 移転建替え案

- ⑥なぜ現地ではダメなの？
- ⑦移転候補地は誰が決めたの？
- ⑧水害で危険じゃないの？
- ⑨通学路の安全対策は？
- ⑩学校跡地はどうなるの？

4. 両案の比較

- ⑪現地、移転の比較
- ⑫スケジュールの比較
- ⑬今後の予定

1. 現在の状況について

①現在の状況

子ども達の未来のために…⁴

市教育委員会

現状の安土小学校の教育環境が満たされていないことからH30から検討

R2.12.10 整備地を移転候補地に決定

近江八幡市

現地建替えを望む声

R2.12.11
移転反対署名（2,014筆）、現地建替え要望

R3.1 市長による地域説明会（全2回）

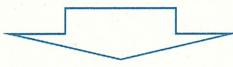
小学校に議論を絞り、移転建設案の説明

R3.4 安土教育施設等整備準備室を設置

地方自治法の「公有財産に関する長の総合調整権」の規定に基づき、
保護者及び学区住民のご意見を伺いながら十分なご理解が得られるよう調整

1. 説明会の対象

小学校を利用されている方、これから利用される方からの声を！



小学校・未就学の保護者の方を中心に説明会を行う

2. 説明会のポイント

- (1) 「子ども」に視点をおき、小学校建設を中心
- (2) 現地建替え、移転の両案について公正な視点で具体的に説明

①現地建替え案

敷地拡張の可能性と建替え案、建設の際の状況

②移転建替え案

不安に思われている浸水対策、交通の安全対策、跡地利用など

③寄せられた様々なご意見 子ども達の未来のために…⁶

1. 不満

現地および移転建替えに対する皆さんとの声

- ①なぜ現在地ではダメなのか
- ②なぜ水没地が移転候補地になっているのか
- ③移転候補地は誰が決めたのか
- ④現地周辺の用地を買収して拡張できないか
- ⑤一部の人たちで決めていて十分な議論ができていないのでは

2. 不安

- ①ゲリラ豪雨に対する不安
- ②避難場所はどうなるのか
- ③通学路含む交通の安全対策
- ④学校跡地はどのようになるのか

3. 愛着

- ①地域に根付いたシンボルであり、歴史や伝統が文化として定着している
- ②駅前にぎわいが消える
- ③これまで地域が率先して協力してきた

2. 現地建替え案について

④敷地拡張の可能性は？

⁸
【現地建替え案】

(1)隣接地が拡張できないか



【再調査内容】

- ①隣接土地所有者に売却の意向があるかアンケートを実施
- ②拡張の可能性がある敷地含め最適な現地建替え案を検討
- ③費用算出、スケジュール精査
- ④説明会で提示

■ 現小学校敷地 (14,810m²)

【調査結果】

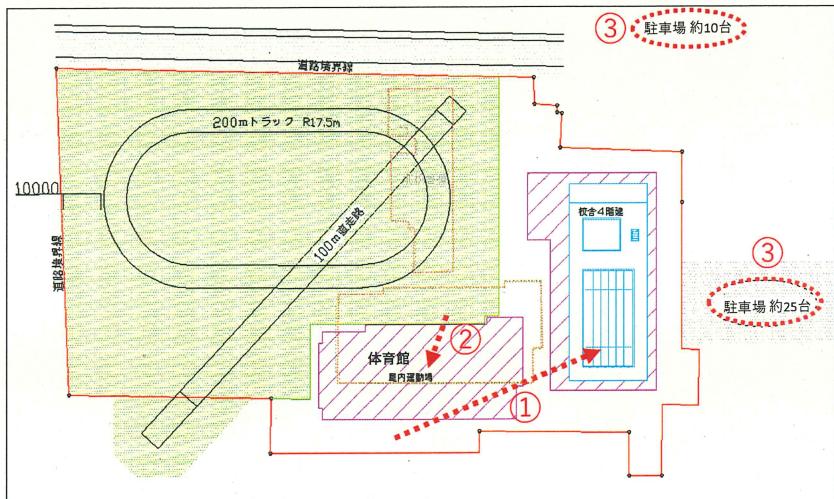
隣接地で敷地拡幅の可能性のある土地が約2,840m²ある

④敷地拡張の可能性は？

【現地建替え案】⁹

(2)最大限に敷地を活用する案

*図案はイメージであり、決定ではありません



【特徴】

- ①プールを取り壊し
校舎（4階）屋上に設置
- ②体育館を曳家で移設
(プール用更衣室等は取り壊し)
- ③敷地外に駐車場を設ける
(子ども達と動線を区分)



敷地を最大限に活用し
グラウンドを拡張

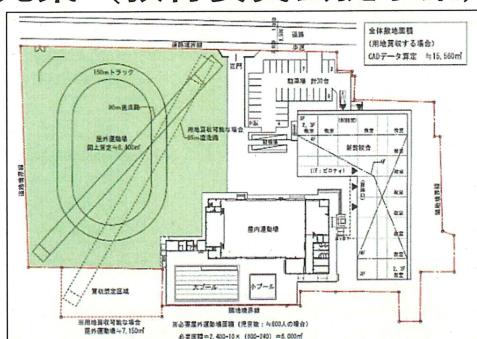
- ・100m直走路と200mトラックの確保が可能
- ・グラウンド面積が市内水準と同等
- ・十分な来客用駐車場などの確保は困難
- ・敷地購入などに1年多くかかる

校舎面積	グラウンド
現在 4,627m ²	6,058m ²
調査後 6,250m ²	10,000m ²

④敷地拡張の可能性は？

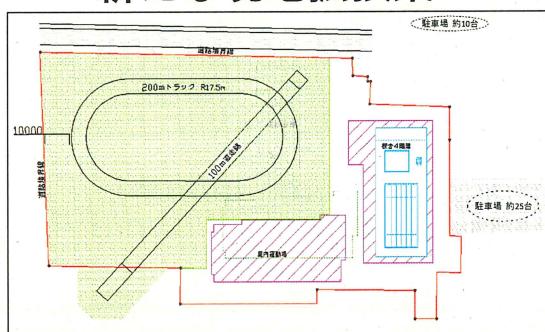
【現地建替え案】¹⁰

(3) 現地建替え案の比較 元案（教育委員会提示案）



- | | |
|--------------|--|
| ①敷地面積
校舎 | 約14,810m ² |
| グラウンド
体育館 | 約 6,250m ² (延床)
地上4階
約 6,400m ²
約 1,380m ²
(ホール、更衣室含) |
| その他 | 約 5,175m ² |
| ②駐車台数 | 約30台 |
| ③概算事業費 | 約31.4億円 |

新たな現地拡張案



- | | |
|--------------|---|
| ①敷地面積
校舎 | 約17,650m ² + 2,840m ² |
| グラウンド
体育館 | 約 6,250m ² (延床)
地上4階
約 10,200m ² + 3,800m ²
約 1,100m ²
(ホール、更衣室無) |
| その他 | 約 4,850m ² |
| ②駐車台数 | 約35台 |
| ③概算事業費 | 約37.9億円 + 6.5億円
(用地代、体育館曳家、プール屋上化)
※建物の補償費は含まれていません |

⑤現地の特徴は？

【現地建替え案】¹¹

(1)地域に見守られている

- ・まちの中にあるため、地域の方の目があり登下校が安心

(2)災害に強い場所

- ・過去に一度も水がついたことはない
- ・地盤がしっかりしている



(3)まちの中心

- ・まちの中心地であり通学の利便性に最適

(4)歴史や伝統

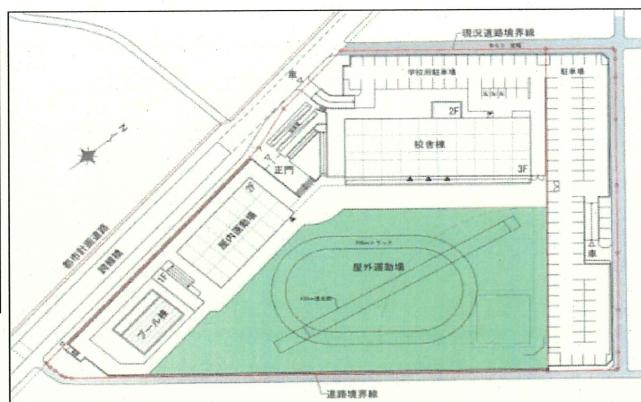
- ・土地は、篤志家の方より水害に強い土地として寄贈された経緯がある

12

3. 移転建設案について



位置図



移転建設案

※図案はイメージです

⑥なぜ現地ではダメなの？

【移転建替え案】¹³

(1)同規模の岡山小学校との比較

【岡山小学校】

児童数	573人	校舎面積	6,271m ²	グラウンド面積	10,200m ²
		一人当たり	10.94m ²	一人当たり	17.80m ²

【安土小学校】

児童数	606人	校舎面積	4,627m ²	グラウンド面積	6,058m ²
		一人当たり	7.64m ²	一人当たり	10.00m ²
岡山小学校との比較 約70%					約56%

安土は
市内最小

(2)市教育委員会の学校整備の方針

子どもたちにより良い学校環境を整備したい

「他学区と同水準の学校環境の整備」を行う



現地の隣接土地所有者の数件に土地売却の意向を確認したが…

敷地拡幅が困難なため移転による整備ができないかを検討

⑥なぜ現地ではダメなの？

【移転建替え案】¹⁴

(3)現地建替えの課題

①南校舎を解体するため仮設校舎の設置が必要（約2,900m²）

約2年間は仮設校舎を使用

（3学年9クラス、特別教室、職員室など）



岡山小学校の仮設校舎の写真

②近隣への影響

- ・住宅、校舎に近接しているため、工事の騒音・振動の影響、工事用車両の搬出入など

③子ども達への負担

- ・工事中は、体育館（約1年間）やグラウンド（約4年間）が使用できない
- ・工事の影響を受けるが、新校舎に入ることができるない子ども達がいる



岡山小学校の工事写真

④敷地が狭い

- ・十分な来場者駐車場が確保できなかったため送迎時の渋滞が解消されない



近隣や子どもへの負担を考え、移転による整備ができないか検討

⑦移転候補地は誰が決めたの？

【移転建替え案】¹⁵

平成30年 市教育委員会により

「移転候補地4箇所」を比較検討し決定

※現在地から比較的近い一団の農地4箇所を移転候補地として検討

【第1案】安土ニュータウン北側 【第2案】JR高架北側



【第3案】 加賀団地東側



【第4案】 四ノ坪西側



- ・法的規制等
 - ・道路・交通事情
 - ・通学路の課題
 - ・JR南北方向への移動
 - ・地形
 - ・浸水想定
 - ・周辺環境
 - ・選定地の状況 など
- 以上の観点から総合評価

移転候補地を
第2案に決定

⑧水害で危険じゃないの？

【移転建替え案】¹⁶

(1)移転候補地の状況

- ・昔は湿地帯であり、土地も低く、地盤はゆるい
- ・水害ハザードマップの想定最大規模によると1～2mの浸水想定区域内
(最大規模の大雨により琵琶湖などの一級河川が氾濫+200年に1回
起こりうる大雨(634ミリ/日、131ミリ/時)が同時に発生した状況)

(2)過去の水害

- ・明治29年の未曾有の大豪雨が発生(10日で約1008ミリ、湖水位+3.76m)したことがある
※その後の治水対策の実施によって、この規模の水害が起こる可能性は無くなっています
- ・平成29年のゲリラ豪雨(彦根：200ミリ/日)により一帯の田に水がついたことがある



明治29年の時の写真
滋賀県県水害情報発信サイトより



平成29年の移転候補地の写真

⑧水害で危険じゃないの？

【移転建替え案】¹⁷

(3)専門家の意見（滋賀県立大学 瀧准教授）

- ①ハザードマップの想定最大規模は、1000年確率で計画されたものである
- ②現在地は1000年でも水がつかない場所だが、移転候補地は琵琶湖の水位と連動して、浸水する頻度が高い
- ③移転候補地は、大雨が降っても一気に増水することではなく、徐々に水位があがる場所である

(4)水害対策

- ①水害の想定水位以上に造成工事（地盤のかさ上げ）を行うことにより、小学校に水はつかない

- ②学校の危機管理マニュアルによる対策
有事の際は、マニュアルに基づき児童の登校が危険だと判断した場合には臨時休業や自宅待機を措置



造成工事の例（岡山小学校）

⑧水害で危険じゃないの？

【移転建替え案】¹⁸

(5)避難所はどうなるのか？

【現状】

安土小学校は、現在、地震の際の避難所ですが、水害の際の避難所にはなっていない



避難所は、安土小学校の建設時に、市の防災計画の見直しが行われる

(6)水害時の周辺イメージ

- ・県道の道路高 (T.P.86.6m)
- ・最大想定水位 (T.P.86.81m)



道路に想定最大で
約20cmの水がつく

市教育委員会の案では、

200年に一度の有事の際に一時的にリスクはあるが、
総合的に判断し学校建設の候補地としています

⑨通学路の安全対策は？

【移転建替え案】

19

通学路のイメージ



- ・県道バイパスが完成するまでは、敷地南西側からの登校を想定
※通学ルートは、移転決定後に改めて検討される

⑩学校跡地はどうなるの？

【移転建替え案】

20

移転した場合の学校跡地は？

【現安土小学校への思い】

- ①安土小学校の土地は篤志家より寄贈された
- ②地域に根付いたシンボルであり、歴史や伝統が文化として定着している
- ③駅前にぎわいが消える
- ④これまで地域が率先して協力してきた



学校跡地は、
地域住民の皆さんのご意見を伺いながら協議を行い検討

4. 両案の比較

⑪現地、移転の比較

【両案の比較】²²

【概要】 現地拡張案

①敷地面積	約17,650m ²
校舎	約 6,250m ² (延床) 地上4階
グラウンド	約 10,200m ²
体育館	約 1,100m ²
その他	約 4,850m ²
②駐車台数	約35台
③概算事業費	約37.9億円

- ・当初概算事業費は、31.4億円でしたが、再精査による約1.1億円の減や敷地拡張などに伴う事業費の増により
約6.5億円増加となり約37.9億円

【特徴】

- ・水害があっても水がつかず、地盤がしっかりとした場所
- ・まちの中心で地域の方の目があり、登下校が安心・安全
- ・工事中の子どもへの負担が大きい
- ・現敷地内では駐車場が十分確保できない

移転建替え

①敷地面積	約28,000m ²
校舎	約 6,200m ² (延床) 地上3階
グラウンド	約10,400m ²
体育館	約 1,100m ²
その他	約14,300m ²
②駐車台数	約220台
③概算事業費	約36億円

- ・当初概算事業費は、37.1億円でしたが、再精査に伴う事業費の減により
約1.1億円減少して約36億円

- ・土地が低く、水害の際には周辺に水がつく場所
- ・交通量が多く、児童の安全対策が課題
- ・工事中の子どもへの負担が無い
- ・駐車場が敷地内で十分確保できる

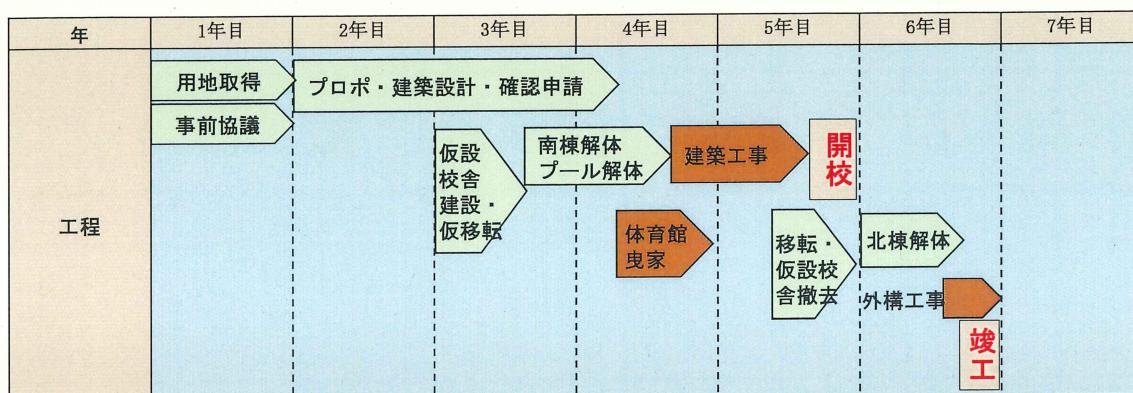
⑫スケジュールの比較

【両案の比較】²³

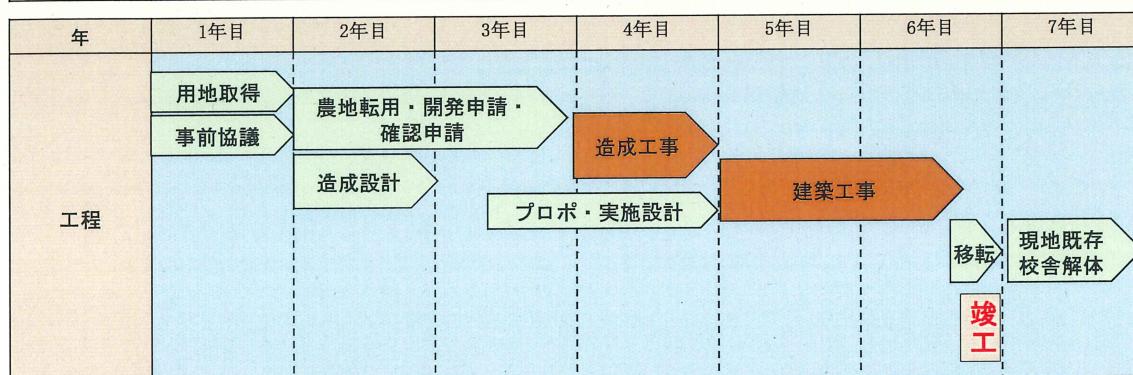
スケジュール案

*スケジュールは決定後に再検討します

現地拡張案



移転建替え案



⑬今後の予定について

子ども達の未来のために…

²⁴

方針の決定

皆さんからのお声をお聞きして、調整を行い、
9月頃に市としての方針を決定していく予定

*小学校の建設地が移転候補地に決まった場合は、
引き続き、コミュニティエリア整備の検討を行う

安土小学校候補地選定比較表

	第1案	第2案	第3案	第4案
場所	安土町常楽寺	近江八幡市下豊浦	近江八幡市下豊浦	近江八幡市慈恩寺
現況	田・畠			
道路で囲われた面積 (最大面積)	約27,000m ²	約30,000m ²	約 50,000m ²	約41,000m ²
学校整備には十分であるが、将来的な敷地拡張は不可	学校整備に十分な敷地	学校整備に十分な敷地	学校整備に十分な敷地	学校整備に十分な敷地
用途地域	市街化調整区域			
現校舎との距離	約500m	約400m	約600m	約700m
法的規制等	用地の一部が河川保全区域であり許可が必要			
道路・交通事情	現状、周囲の市道は狭く、近隣住宅への影響が大きい、北側県道からの道路整備の検討が必要。	県道に面しており、車でのアクセスが良い 敷地北側にバイパスの計画あり。	北側県道からのアクセスが良い。	道路は狭く、近くに幹線道路が無いため、周辺への影響が大きい。
通学路の課題	道が狭く、歩道の整備もされていない。 JR南北の児童の横断	現小学校に近く、通学路の見直しは最小限		JR南北の児童の横断
JR南北方向への移動	踏切	地下道	地下道	踏切
近隣学童保育所		かざぐるま	ひまわりクラブ	ひまわりクラブ
他の市施設との連携	コミセン・幼稚園に近い	コミセン・幼稚園に近い	安土中学校に比較的近い	
地形	山本川等、河川に挟まれており、水害への不安。	大雨により浸水することがあるので盛土等の対策が必要。		
浸水想定	1.0~2.0m	1.0~2.0m	0.5~1.0	浸水想定区域外
周辺環境	南側宅地への配慮		西側宅地への配慮	東側宅地(開発)への配慮
支障物件等	民家や小屋数軒有り			
選定地の状況	市街地中心部、現小学校に近い。 JR線から南側からのアクセスが児童の通学、車での移動とともに課題がある。	市街地中心部、現小学校に近い。 南北方向いずれも児童・車ともに利用しやすい。	市街地中心部から遠くなるため、避難場所としてはやや適さない。 南北方向いずれも児童・車ともに利用しやすい。	位置の関係上、JR北側から、南側への通学する児童の多くは踏切を渡ることとなる。 車でのアクセスも悪く、周辺に与える影響が大きい。
総合評価	×	○	△	×